

福祉保健部の運営方針 2025

(基本理念)

- 健康寿命が全国トップクラスの「健康立県」を実現し、県民全てが生き生きと暮らせる新潟を目指す
- 保健（健康）・医療、福祉及び結婚から子育てまでの切れ目ない施策を推進するための庁内・部内横断的な連携体制や、市町村・関係団体等との緊密な協力体制の構築
- 上記を実行するために、意見の言いやすい職場環境を作り、より根本的な課題解決やスピード感を意識しながら、施策立案機能を強化（発想は大胆に、実行は緻密に）

上記及び次の3つの視点に基づき、3項目（別紙）を方針の柱として定める

1 県民満足度の向上

(1) 県民ニーズの把握及び市町村・関係団体等との連携

- ・新潟県総合計画等を踏まえ、サービス受給者等をはじめとした県民からのニーズの把握、県民ニーズの反映に向けた検討を行う
- ・施策立案に向けた市町村・関係団体・事業者等との意見交換等を推進する

(2) EBP Mに基づく施策の実施

- ・複雑化する地域の健康・医療・福祉課題の解決に向けて、部内横断的な問題意識を持ったうえで、データに基づいた施策立案を実施する

(3) DXの活用による県民サービスの向上

- ・DXの活用により、県民サービスの向上や事務の効率化を図る

2 「つなぐ」意識

(1) 課題解決に向けて「つなぐ」（課題への当事者意識）

- ・自分だけで解決できない場合は、解決につながる可能性があるところに「つなぐ」
- ・また、つながれた場合は、課題解決に向けて協力し、そこで解決が難しい場合でも、積極的に次に「つなぐ」ことで課題を放置せず、解決のサイクルを進める

(2) 地域の人を積極的に「つなぐ」（幅広い人的資源の活用）

- ・人と人を積極的に「つなぐ」ことで、自発的な助け合いの関係構築を促す

(3) 未来に向けて事業を「つなぐ」（政策の検証）

- ・現状を必ずしも是とせず、将来にどのように「つなぐ」か意識する

3 職員の資質・業務遂行意識の向上と風通しのよい職場環境づくりの推進

(1) 職員の資質・業務遂行意識の向上

- ・課題を先送りせず、「逃げない県政」の実践として、地道に真摯に取り組む意識付けと、部内研修を通じたEBPMマインドを醸成する
- ・目的や必要性など客観的な視点に基づいた業務の改善・効率化を図る

(2) 職員が相互に健康へ配慮できる職場環境づくり

- ・休暇の取得促進やテレワークの実施などによる仕事と生活の両立と、働き方改革のより一層の推進を図る
- ・職員一人で抱えこむことが無いような、風通しのよい職場環境づくりを実践する

(別紙)

福祉保健部の運営方針2025の柱

1. EBPMに基づく施策の立案

2. ポジティブなサイクルを回すための「つなぐ」意識

- ・ 課題解決に向けて「つなぐ」(課題への当事者意識)
- ・ 地域の人を積極的に「つなぐ」(幅広い人的資源の活用)
- ・ 未来に向けて事業を「つなぐ」(政策の検証)

3. 課題を先送りせず、「逃げない県政」の実践として、地道に真摯に取り組む意識付けの徹底

「福祉保健部の運営方針」に基づく主な取組の概要

主な取組項目

① 福祉保健部運営方針の策定

- ・ 部運営の方向性を明らかにし、県民満足、職員満足を向上させるための業務運営方針を明示

② 福祉保健部運営方針の所属方針への反映

- ・ 運営方針の各項目から、各課が重点的に取り組む項目を1つ選択(上記3つの柱から1つを選択)
- ・ 人材育成型評価の実施における「所属方針」に反映
- ・ 根本的な課題解決と施策のスピードアップ

③ 組織活性化に向けた部横断的な取組

- ・ 業務担当職員の企画・説明能力及びモチベーションの向上(若手のうちから、部長レク等の説明する機会の確保)
- ・ 本庁と地域機関との意見交換、情報共有等

④ 部長表彰「福祉保健部長表(笑)」

- ・ 福祉保健部で取組まれている好事例(工夫)を「チャレンジ」「創意工夫」「効率化」の視点から表彰し、共有することで一層の組織力向上や業務改善を図り、笑顔の輪を広げる